

総覧沖縄

第 60 号

編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173 (代)

FAX 098-882-5688

電子メールアドレス： o.fukushi@okinawa-j.jp

ホームページ： <http://www.okinawa-j.jp/>



児童家庭支援センター「はりみず」を開設

児童家庭支援センター「はりみず」

相談員 奥平 久乃
おくだいら ひさの

平成24年8月1日、漲水学園内に児童家庭支援センター「はりみず」を開設しました。児童家庭支援センターは、児童福祉法及び社会福祉法に基づき沖縄県から認可を受けた児童・家庭に関する専門相談機関です。

児童家庭支援センターの事業内容としては(1)児童の福祉に関する地域・家庭からの相談に応ずる事業(2)市町村の求めに応じる技術的助言(3)都道府県または児童相談所からの受託による指導(指導委託ケース)(4)関係機関との連携・連絡調整(5)里親支援(6)子育て支援事業等があります。センター長(施設長兼任)、相談員2名、心理療法担当1名が常駐しています。本体施設とも連携し24時間体制で相談受付を行っています。受付の方法は、電話・訪問・来所・ファックス・メール等で相談者が相談

しやすい方法を取ってもらいます。ケースによっては、心理療法担当との面接も行っています。開設から4か月経ちますが、様々な相談や悩みが寄せられてきます。電話相談だけで解決する時もあるれば、学校や行政機関に何度も足を運んだりする時もあります。悩み解決や問題解決の支援のため、相談者や子どもの気持ちに沿った支援活動を心がけ児童相談所の助言を仰ぎながら、宮古島市児童家庭課や教育委員会・学校等各関係機関と連携し協働していく事も大事な役割です。

今後も、子どもを中心に据えた社会的養護の在り方を念頭に置き、宮古島の子ども達が地域の中で生き生きと成長できるように、子育て支援・サポートとしての「はりみず」であるよう取り組んでいきたいと思っております。

中間管理者研修会を受講して

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園



副園長 知花進

10月22・23日の一泊二日宜湾市で開催された中間管理者研修会を受講しました。

研修内容は、中間管理職の在るべき姿についてグループ討議形式で行われました。

研修の中で各施設の中間管理職の抱える問題・悩み等を含めて、今後各人がどう自己覚知し、組織の中でリーダーシップを発揮していくか課題が明確化されました。講師から「同業・異業種」で目標とする施設はありますかと問われたとき、あまり意識したことがなかったので戸惑いを隠せませんでした。

そこで自問自答しながら何を目標にすべきなのかを見つめ直し情報を収集し、時代背景に沿った対応を行うためには、優良企業と言われる業種や他職種も参考に課題解決への糸口としたいと考えました。

今回の研修で学んだことを施設の中でどのように取り組むべきか、情報を共有し、認識を深めながら自己啓発を高めアクションを起こし、リーダーシップを発揮することが、中間管理職に求められていることだと痛感しました。



利用者支援（食事）に関する研修会を受講して

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園



管理栄養士 比嘉美記

今回の研修会は、「口から食べるを護るためにあなたができること」をテーマに沖繩リハビリテーションセンター病院吉田医師を講師にユーモア溢れる講話があり、研修会をライブと称して楽しく学ばせて頂きました。

認知症患者の摂食障害の原因やその症例等から、介護する側の「知っているか、知っていないかに大きな違い」があり、その差がケアの質にも大きく関わってくることや、吉田先生が行った高齢者の栄養不良判定において、多くの高齢者の栄養不良が見逃されているというデータなど、どれも興味深く、改めて専門知識を生かした視点や、様々な媒体を使った栄養評価の重要性を感じました。

その他にも、介護に携わる職種として学習しておくべき内容が盛りだくさんで、充実した研修会でした。今後「口から食べること」にこだわり、利用者の立場にたった栄養ケアを提供していけるように努めたいです。



Disneyアカデミーを受講して

医療型障害児入所施設 沖繩療育園
サービス管理責任者兼児童発達支援管理責任者



宮里美奈子

8月末、台風を気にしながら東京へ。Disney大好きである私にとって行き慣れた東京。今回は、遊びではなくDisneyのゲスト・サービス、フィロソフィー（哲学）のレクチャーを受けてきました。Disneyは福祉？仕事の内容は違うのでは？と思う方もいると思います。Disneyという「ホスピタリティ」も「おもてなしの心」は、措置から契約への変化を遂げてきた福祉の現場（私にとっては、どんな仕事でも）必要とされているものだと思います。なぜ、Disneyへ訪れるゲストの9割がリピーターなのか。2万人いるキャストの1万8千人が準社員でもホスピタリティに溢れた対応ができるのか。接客マニユアルがなくても笑顔で仕事ができるのか。「できない」ではなく、「何ができるのか」を考える。「幸せ」を提供することで働く楽しさや幸福感を得ることの違いがあると感じた講習でした。

その協力を得る。」ことを目的としています。連絡会議は、年3回実施され、女性相談所と当寮にて交互に開催されています。1回目は、顔あわせも兼ね主管課である県福祉保健部青少年・児童家庭課も交え開催しています。寮への入所は女性相談所からの措置となっておりますので、主な議題としては、利用者の状況報告がありま



婦人保護事業関係機関連絡会議について

婦人保護施設 うるま婦人寮



生活指導員 佐久本里子

11月21日に開催した連絡会議は、「利用者への効果的な支援を円滑に行うため、関係機関との連携を密にして

その協力を得る。」ことを目的としています。連絡会議は、年3回実施され、女性相談所と当寮にて交互に開催されています。1回目は、顔あわせも兼ね主管課である県福祉保健部青少年・児童家庭課も交え開催しています。寮への入所は女性相談所からの措置となっておりますので、主な議題としては、利用者の状況報告がありま

利用者の抱える様々な問題は、職員だけで解決することは難しく、関係機関と情報を共有し、共通理解を深める等連携を密にしていくことで、効果的な利用者支援及び円滑な問題解決の一助となっています。



名護厚生園におけるリスクマネジメントの取り組み

養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園

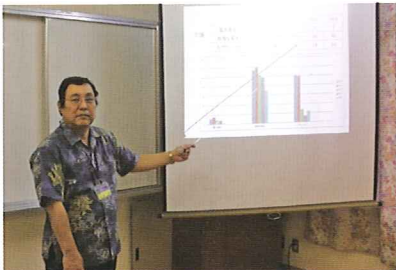
園長 宮里 淳

名護厚生園においてはこれまでのリスクマネジメントの取り組みの弱さを反省し、「事故発生防止のための基本指針」を全職員が再認識するよう次の事に取り組みを進めました。①リスクの洗いだし（事故、緊急事態と考えられる事柄）②現状の把握（データ収集）③現状の把握（データ収集）④基本的な安全活動のチェック

④基本的な安全活動のチェック・安全規則を再確認し遵守させる（車椅子を一度に2台押し禁止・利用者を座らせたまま持ち場を離れない（トイレ、浴室等）・立つての食事介助の禁止）。具体的には重大事故発生について、当日中に事故対策会議を開催、事故防止検討委員会に繋いで、発生要因を分析し、施設全体で対応する。防止策の評価は半期毎の職員研修に行い、施設全体に周知する。そのほかに、日々の取り組みとしては毎週月曜日の全体朝礼で事故発生件数の報告をし、事故防止対策の重要性を認識するよう努め、意識づけの為、「今週も、事故、誤薬に注意しましょう」と全員で唱和

することや、各部署（グループ）で今年度の事故報告書（重大、軽微な事故）ヒヤリハット報告書を閲覧しサインで確認を行っている。このようにして事故発生防止に取り組み、上半期は昨年度より重大事故（骨折、誤薬）の発生が大幅に減少したが、軽微な事故がまだ減少せず、対策をより強化していきたい。

今年、10月にリスクコンサルティングからの評価として前回平成20年3月の調査時に比べ集団ケアから個別ケアへという努力やベッド・車椅子などの用具の改善や、トイレ・浴室などの設備の改修が進み、生活環境や介助業務の環境はかなり改善されているとの評価を受けた。しかし、リスクマネジメント委員会や事故対策会議が現場中心で園全体での取り組みが弱く、利用者のリスクの情報が少ないとの指摘があり、早急に改善し、リスクマネジメントについて事故の軽減に繋がるよう施設全体で取り組みを強化していきたい。



職場風土改善の取り組み

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園

介護員 大見 幸成



職員個々は良質なサービスを提供を考えていますが、実際のサービスでは一般職員と管理職間・同職員間・介護と看護等の職員間の協力・連携が上手く取れないため活気のある職場とならず、結果として介護事故が発生し、サービスに対する苦情が寄せられ、職員の定着率等に影響が出ているというのが具志川厚生園の状況でした。

多くの職員がこれではいけない！職場の活性化を図り良質なサービスを提供し、利用者・家族・地域から愛される施設となる必要があるとの考えから、職場風土を見直すことにしました。

職場風土の見直しにあたっては、管理職、各職種の代表14名でプロジェクトチームを立ち上げ、職場風土改善のコンサルタントも導入し、『やれば出来る！経営理念・方針のもと自分自身を見直し、真心ケアで介護事故0を目指そう』をスローガンに、毎月2回の定例会議を開催し取組を進めています。

会議では、自分自身を客観的に知るためコンサルタントによる職員のパフォーマンス判定も行われ、その結果に

は正直ショックを受けましたが、自らを知り自ら変わることが大切だと理解すると共に、施設の現状、施設を取り巻く外部環境等についても認識を深めています。

取組は、職場内での言葉遣い・身だしなみ、気づきを高めるための方策、提出物の期限厳守、記録の重要性等多岐に渡っています。まず、園長による経営理念・方針勉強会を全職員対象に実施し浸透させるため申し送りなどに唱和しています。また、コミットメントに基づく『丁寧な言葉遣い勉強会』を全職員対象に実施して利用者への丁寧な言葉遣いに取り組みんでいます。身だしなみについては、接遇委員会を活用してみだしなみ手順書と自己チェックシートを作成しました。

これまでの意識を急に変えることは困難な面もありますが、プロジェクトチームのメンバーを中心に全職員に働きかけを行い、全職員が連携し職場風土の改善を行っているところ



光の村学園との交流会

障害者支援施設及び福祉型障害児入所施設
あけぼの学園

生活支援員 宮里 幸代
みやざと ゆきよ

高知県光の村養護学校は、宮古島に卒業旅行に来島し、トライアスロンに挑戦することが恒例行事となっており。あけぼの学園では当初から、競技に交流参加し、応援や伴走をとおして交流を深めてきました。生徒の皆さんからは学習の成果である郷土芸能の太鼓演舞の他、手作りの木工作品などをいただきました。お返しに盛大なクイチャーを皆で披露すると大きな歓声があがりました。

最終日のラン競技では、利用者の皆さまは、バスの窓からエール



を送り、また沿道では元気よくパーランクーを鳴らして応援しました。光の村の校長先生からは、「いつも元気をいただいています、また来年もよろしく願います」と感謝の言葉をいただきました。来年は一人でも多くの利用者の皆さまが競技に参加交流され、行事を一層盛り上げていけるようがんばりたいです。

地域との関わりについて

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園

生活支援課長 砂川 繁信
すながわ しげのぶ

伝統行事を継承し郷土芸能がさかなな地域に根ざす八重山厚生園は、1年を通して多くの団体や個人が慰問活動に訪れ多種多様な芸能を披露して下さい。

今年もこれまでにJTA機内誌コーラルウェイに掲載された小浜島ばあちゃん合唱団の歌や踊り、新川青年会による旧盆行事「アンガマ」披露等多くの慰問があり、利用者には笑いと元気を与えてもらった。

10月26日に当園グラウンドで開催された年に1度の一大行事である秋の夕涼み会でも、地域から多くの団体の積極的な余興提供があり、中秋の名月の下で利用者・家

族・地域の方々、共に楽しくすがすがしいひと時を過ごし大いに盛り上がった。今後も八重山厚生園は、利用者笑顔を与えられるよう努め、地域に愛される施設として積極的に交流していきたい。



笑顔でつながる地域の輪

医療型障害児入所施設 沖繩療育園

育成課長 親富祖 正信
おやふそ まさのぶ

9月22日沖繩療育園の駐車場で行われた、ふれあい祭りは今年で12回目となり、沖繩療育園、若竹福祉会、平安病院、メディカルK

の4施設合同で実施しています。祭りは6月から実行委員会を開催、地域へのチラシ配布、会場作りを行いました。協賛（沖繩タイムス、琉球新報、FM21ラジオ）、当日は来賓の浦添市長、浦添市社会福祉協議会会長、地域自治会長から利用者の皆さんへ激励の言葉を頂きました。お化け屋敷の他沢山の店と余興、各施設利用者・父母会・自治会の歌や踊り、ピエロ、大城友弥コンサートと大変盛り上がり、利用者の皆さんも余興を見たり、色々な出店で買い物をしたりと楽しい時間を過ごすことができました。今後も地域の関係機関や住民の皆さんと交流が出来るよう祭りを盛り上げて行きたいと思



法人内部監査実施

『お互いの専門知識を活かして』

今年度の内部監査は、名護厚生園、いしみね救護園、うるま婦人寮、宮古厚生園、あけぼの学園、漲水学園の6施設へ実施しました。

今年の新たな取り組みとして、内部監査員に同種の施設職員を加え、今後の施設運営の参考となる機会を持ちました。

今回、内部監査委員として参加した職員は、名護厚生園比嘉克也生活支援課長、よみたん救護園花城裕康生活指導員、北嶺学園中村亜由美サービスマニエール提供責任者です。

次に、参加した職員二人からの所感を紹介します。



内部監査に参加して

障害者支援施設

北嶺学園

サービスマニエール提供責任者

中村 亜由美



私は、あけぼの学園の内部監査に参加させていただきました。監査への参加を要請された時は、同じ障害者支援施設の職員として監査する立場に立つということに、とても戸惑いを感じ、不安でいっぱいでした。自分が他施設の支援について適切な指摘などできるのか。もし改善を指摘しなければいけない点があったとしたらどのように伝えればよいのかといった事を考えながら

準備を進めました。

参加して感じたことは、普段自らが行っている個別支援計画の作成等の業務を監査員という立場から第三者的な視点で観ることが出来たということ。そして、利用者に対して計画に基づいた支援を提供して記録し、振り返るといった日々の積み重ねがあつてこそ利用者のニーズにきちんと応えていくことにつながるものと思いを新たにできる良い機会となり、大変勉強になりました。

救護施設

よみたん救護園

生活指導員

花城 裕康



私は、いしみね救護園の内部監査において、利用者預り金管理関係の監査員として確認させていただきました。

内部監査を実施するにあたり、自身の業務や監査に関する十分な知識や手順等を有しているのか不安を抱きながらの監査を遂行しました。

当日は要綱を基に確認を行い、初めての経験だった事から「適合」「不適合」の判断基準は？根拠となる要綱等との「関係性」が合っている？等の戸惑いが多々あり事務局職員より、助言等を仰ぎながらの監査になりました。

今回の監査で自身の業務を振り返る機会となり貴重な経験となりましたことに感謝しています。

職員の語り

心と身体のリフレッシュ

障害者支援施設及び福祉型障害児入所施設

あけぼの学園 生活支援員

砂川 直美



私が事業団に入ってから間もなく知り合いからママさんバレーに誘われました。学生の頃もやっていたので身体を動かすことは好きなので直ぐに週2回の練習に参加するようにになりました。最初の頃は筋肉痛になり運動不足を実感しました。ママさんバレーはすごいです。更に大会になるとパワーアップします。それに体は疲れているだろうけど口は疲れない。練習後は座談会や悩み事も。又、大会の時は一品ずつ持ち寄り美味しい昼食をたべて元気を取り戻す。心と身体がリフレッシュ出来る源だと思えました。現在勤務が三交代制になり参加できないのが現状。今は利用者さんにとつても一緒に身体を動かし美味しい食事を食べ楽しくお喋りをする事がリフレッシュかな？と思っています。



大家好(ごん)にちは

婦人保護施設

うるま婦人寮

看護師

平田 真由美



今年3月から始めた中国語、未だパイ音と四声に苦戦している。9月反日感情の高まる中で好奇心旺盛なメンバー6名は朴老師の引率で中国人民大学で中国語検定初級を受ける。試験は全て中国

語で行われ緊張と焦りの中で終了のチャイムを聞く。ため息が漏れる教室で「初級はダメでも来年はハルピンで中級を絶対とるぞ」と先輩。「えっ、来年はハルピン」と思いつつも挫折せず続けているのは、先輩方の学びに対する情熱と直向きさが私をサークルに駆り立てているのである。



私の趣味

養護・特別養護老人ホーム

八重山厚生園

介護員

玉元 健太



私の趣味はスポーツをする事で、特に好きなスポーツがソフトテニスです。学生時代から始め、社会人になった今でも、学生時代の先輩や後輩と定期的に練習しています。

ソフトテニスの魅力は、必ずしも運動能力が高くなくても勝てる可能性があることだと思います。ボールが柔らかく試合時間もそう長くはないソフトテニスでは、筋力や持久力の差が出にくく、メンタル面での駆け引きが勝敗に大きく関わるからです。決してスポーツ万能ではない私ですが、県大会等で実績が残せたのもソフトテニスの特性によるものだと思います。これからも勝利を目指し、楽しみながらソフトテニスをやっていきます。



施設長 リレーエッセイ

気まぐれな趣味（つり・三線・野菜作り）



救護施設 いしみね救護園
園長 竹田 陽一

リレーエッセイは、紺碧を担当していた時に私が設けたが文学的表現が苦手な私に順番が回ってくることは今風に言えば「想定外」である。

趣味にも想定外があり、私の場合環境で趣味が変化した。正直に言えば人に自慢できるものが無いので「釣り、三線、農業」について述べる。私は生まれが石垣市で、父が兼業として農業を行っていたのを、手伝いという名の邪魔をして農業は難儀な仕事だと決めつけていた。父の転勤とともに転校し離れ、心の内では幸いと思っていた。

那覇では、友人と釣りに行くのが楽しみで、友人はついに船を買って、故郷の今帰仁に保留し宿泊しながらの船釣りを楽しんできたが、それぞれ子供が二人目となった頃から妻の目が怖くなり回数が減っていった。

平成元年事業団への転職で2度目の石垣市生活、土日は農業を手伝っていたが、釣りが頭から離れず、職員と何時も釣りに行っていた。海は少し時化していたがいつものように3名で船にのり、近海の御神岬を目指し出港、名蔵湾の中央あたりで突然大きな横波を被った。息を止め、目を閉じ、中々波が去らないなと思っていると操舵していた職員の呼ぶ声に、目を開けるとなんと二人とも海の中ではないか！泳ぎに自信がないため、船にしっかりへばりついていた片方に助けられ今日がある。釣り竿、リール等損害額数10万円、低速で湾内の浜辺に船を着け

「夕バコを1服」世界一の美味さだった。釣りは「雨の中夜間航海灯が点かない」「豪雨で島が見えない」「釣り竿・燃料タンクの積み忘れ」等色々な楽しいハプニングもあるが又の機会に。なおこれらの出来事を、妻は知らない！
三線との出会いは、具志川で勤務した頃で施設長が夜は芸人だと知り、敬老会にお年寄りと一緒に三線で盛り上げようと、数十名が習うことになった。

夏のボーナスで三線を購入し、本格的に習い始めたところに事務局転勤となり、おろそかになったが、先輩方に来るようせかせかされ週1回また通い始めた。ところが父の突然の死去で毎週毎月のように石垣へ帰省するようになり、弾く意欲が無くなり、三線は皮が破けたまままだ。

しかし、その間も釣りは欠かさず、バヤオ（浮き魚礁）での船釣り、別世界の久高島での宿泊釣り、先輩のキャンピングカーでの（酒、バーベキューがメインだが）釣りを楽しんだ。

3度目の石垣での生活は、単身赴任なので釣り三昧の予定であったが、父が残した畑がジャングルのように荒れていたため、友人の協力ですべて、プレハブ倉庫まで建て、ジャガイモ・スイカ・バナナ・モリンガ等を植栽し、農業が楽くなったため釣りは数回しかできなかった。

さて今回那覇に戻ったが、「釣り竿造りの名人」と釣りに行く話はあるが、日程が合わずまだ1度も行かない、やはり私にとって釣りは「気まぐれな趣味」といえる。

高齢者の「食」について

具志川厚生園の取り組み

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園

栄養士 浜田 幸子

具志川厚生園は介護老人福祉施設・養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス等の事業を行っています。

食事においては同じ献立であっても、身体機能の低下が多く見られる介護と、自立されている方が大半を占める養護では、提供する食事の形態から栄養補助食品の有無、自助具の使用等に至るまで提供する内容やそれに付随する食べやすい食環境の整備まで異なるため、一人ひとりの機能、特性に応じた支援を可能な限り行っています。

まず、介護において実施している現在の取り組みを紹介します。摂食嚥下機能の低下した利用者は、機能訓練士を中心に摂食嚥下機能の評価、食事の際の姿勢保持、食事の形態、介助方法等を多職種協働で検討します。特に介護員には実際の食事介助、摂取の状況を確認してもらいながら介助のポイントを把握してもらいます。それを繰り返し全員が習得するまで行います。このような取り組みを続ける中、経営栄養の利

用者が完全経口摂取へと移行しました。口から食物を摂ることで発語が増え、他者との交流や、表情に豊かさが出てきました。目標を達成したことで介護員の意識もかなり向上したようです。高齢化による体力の衰えや機能低下、更に様々な疾病を有する利用者の健康状態を改善する事は容易なことではありませんが、利用者の意向に沿った支援が満足感や生きる張り合いに繋がることを再認識する事が出来ました。今後も利用者に寄り添った支援を行って行きたいと思っています。



施設
だより

レク大会

救護施設 いしみね救護園

生活指導員 我那覇 博明

10月24日、天気にも恵まれた運動日和、当園中庭にてレク大会が開催されました。例年、訓練棟・中庭のグループに分かれて競技を行っていましたが、今回は全員が一緒に参加できるように行事委員を中心に競技を考え実施しました。

赤白組に分かれ、風船割り競争、野菜運搬リレー、玉入れ競技を競い合いました。参加する側も応援する側も盛り上がりを見せ、最後に職員、実習生による車いすリレーで競技を終え、レク大会終了後には、中庭で昼食を食しました。

今回全員が一緒に参加出来た事で利用者から「みんなが参加できて楽しかった。」等の声が聞かれ、体を動かす事でリフレッシュになったかと思われます。今後も利用者者に喜んでもらえるよう計画していきたいと思えます。



ジャガイモ植え付け

養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園

生活相談員 儀武 将明

晴天に恵まれた11月2日、名護厚生園1階食堂横の畑で養護利用者と一緒にジャガイモの植え付けを行いました。この畑は利用者の余暇活動の一環として今年四月に開墾した畑です。夏に近隣保育園との交流でトマトやオクラ・ゴーヤーの植え付けと収穫も行いました。

利用者の中には、若い頃農業に勤しんだ方も多く、スコップや鍬を見て懐かしむ方、土に触れながら汗を流してジャガイモの植え付け作業をする方、瞳を輝かせて作業の風景を眺める方々と共に充実した一時を過ごすことができました。

先日植え付けしたジャガイモが芽を出しました。人生の大先輩である利用者者と協力しながら、もうしばらく水やりと草取りを頑張っていきたいです。そして収穫日にはジャガイモパーティーを開催し、一緒に楽しみたいと思えます。



施設
だより

ビーチパーティー

障害者支援施設 都屋の里

介護員 又吉 篤志

9月26日園外行事としてのビーチパーティーを残波岬公園のバーベキュー場にて、利用者、ご家族、職員の総勢52名の参加のもと開催しました。

天気にも恵まれ、さわやかな秋風を感じながら、利用者は残波岬公園や、ビーチ等を散策なされ、いつもと違った表情や笑顔が多く見られ、とても楽しい雰囲気でも盛り上がりしました。

浜辺でお肉等の美味しいごちそうを頂きながら、なごやかな雰囲気の中で多くのご家族との交流もあり、普段では見られない一面も見受けられました。昼食後はスイカ割り等のイベントもあり、我こそはと多くの利用者が積極的に参加して楽しい時間を過ごしました。

空気のおいしい浜辺で利用者の少し日焼けした顔が清々しくて、思い出に残るビーチパーティーとなりました。



「がんずうさー」一番敬老会

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園

生活相談員 砂川 正司

老人週間内の9月21日、敬老会が開催されました。今年は、新百歳を迎える男性利用者1名を含め、米寿9名、風車4名、百六賀1名、計15名と多くの方々祝福を受けました。

ご家族による余興では、米寿を迎えられた父と娘達によるカラオケや舞踊、民謡ライブ等で大いに盛り上がりしました。

また、利用者紹介スライドショーでは、昔ご活躍されていた頃を思い出し、涙を見せるご家族もみられました。

当日は、家族会からオードブルや飲み物の提供等があり、出席されたご家族が一堂に会し交流を深める事が出来ました。また、来賓として宮古島市副市長、第三者委員、家族会役員の皆様も出席され、盛会裡に終える事が出来ました。



施設
だより